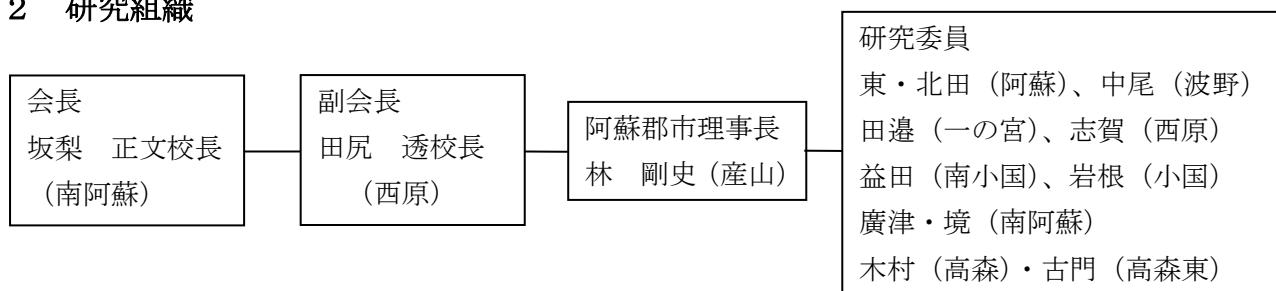


1 はじめに

これまで阿蘇郡市は、坂梨正文校長（南阿蘇中学校）を中心に10校12名の保健体育科担当で研究を進めてきた。昨年度より運動の特性を「機能的特性」、「構造的特性」、「効果的特性」の3つに整理した授業づくりに組み込み、平成31年度の熊本県中学校体育研究会の阿蘇大会へ向け、組織づくりや、授業内容の検討などを行った。その土台を来年度以降の実践並びに研究へと進めていきたい。

2 研究組織



3 活動状況

会議	期日	内容
1 中体連評議委員・体育担当者会	4月14日(金)	H29年度組織決定 授業者決定(産山中:林教諭)
2 第1回阿蘇郡市教育研究会総会	5月1日(木)	昨年度の実践の報告・まとめ 研究テーマ・組織・方向性検討
3 第2回阿蘇郡市教育研究会 中学校体育保健体育部会	6月8日(火)	公開授業及び授業研究会 ※次年度以降の研究授業検討
4 第56回九州学校体育研究 発表大会	11月21日(火) 22日(水)	熊本市 会場:力合中学校 他
5 阿蘇郡市中体連・中体研反省	2月22日(木)	年間活動の反省 来年度への志向

4 研究テーマ

阿蘇郡市 平成29年度

「自ら運動の喜びや楽しさを求め、

生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ保健体育学習の在り方」

～対話的活動を活用し、生徒の達成感・成就感を高める活動を目指して～

仮説1

運動の特性を3つに整理することで学習内容を明確にし、学習過程を工夫し授業実践・評価を行えば、生徒は見通しを持って主体的に運動に取り組み、豊かなスポーツライフの実現の基盤が培われるであろう。

仮説2

課題解決の場においてかわり合いを効果的に行えば、仲間とともに考えを深め合いながら自主的に運動に取り組み、「分かってできる」「できて分かる」喜びや楽しさを味わい、生涯にわたって健やかな心と体を育む基礎が培われるであろう。

視点2 重点項目

対話的活動を活用し、「分かってできる」「できて分かる」結びつきがあり、自己肯定感・自己有用感が高まる指導の工夫。

視点3 重点項目

自己の課題に応じたスモールステップの場や段階的な指導を行うことでの主体的な学びを促す授業展開の工夫。

5 研究の概要

(1) 公開授業及び授業研究会

授業者 林 剛史教諭 (産山中学校)



マット運動の授業での様子

段階的な指導

自分なりの具体的な「めあて」を立てよう
 例①: 腰を高く保ち、勢いのある回転をする
 例②: STEP表から抜き出す
 → 足が曲がるけれど起き上げられるようになる

《前転系の技》めあて①:

STEP①: 段差を利用して起き上げれる	STEP②: 1
POINT 1 腰を高く、しっかりと取るこが できている	
POINT 2 前方に足を伸ばし出している	
POINT 3 マットに着く直前に足は曲がる	
POINT 4 体をマットに着し、立ち上がる	

個人めあての作成

STEP 1 段差を利用して起き上がる
ことができる

STEP 2 ひざが曲がるが、起き上がる
ことができる

STEP 3 ひざを伸ばして真っ直ぐに
回転し、起き上がる

Small Step 表 (段階的指導)

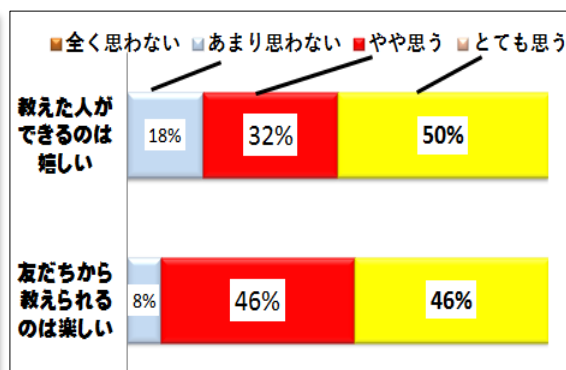
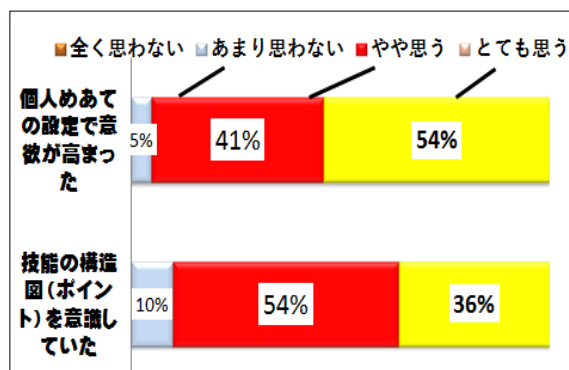
対話的活動



3人組のグループ学習



ICT活用での対話



個人めあての作成や、ステップアップ (段階的な指導) により学習意欲の向上が見られた。また、教え合い活動 (対話的活動) では8割の生徒が他者の向上を肯定的に感じていることが分かった。

6 まとめ(成果と課題)

今年度6月8日に研究授業、授業検討会を行った。成果は「構造的特性」を授業づくりの念頭に置き、段階的な指導の工夫や、また技では何がポイントなのか (構造的) を生徒に分かりやすく提示することができたことである。課題は「授業の柱」についてや「生徒の成就感や達成感」であった。ICTなどを活用する対話的学習を取り入れたが、各校によって現状も違う。また、スキルウォームアップと主活動へのつながりなども課題であった。今後は平成31年の発表へ向けて「阿蘇らしい授業」について考えながら、本格的に運営組織の作成や、授業内容の検討並びに多くの授業実践を積み重ねていく必要がある。